

柏葉

第51号



八女市立福島中学校

信頼される学校づくりをめざして



校長 松野 昭人

本年度も福島中学校においては、継続して「生徒、保護者、地域の皆様から「信頼される学校」をめざして「秩序ある学校づくり」と「学力のつく学校づくり」に力を注いできました。その間、生徒たちの頑張りと保護者、地域の皆様をはじめ、読み語りボランティアの皆様など多くの方々のご理解とご協力に支えられ今日を迎えられますことにあらためて感謝申し上げます。

さて、本年度より中学校にも本格実施されました新しい学習指導要領をはじめ、教育をめぐる環境の新たな変化のなかで、学校も多くの課題の解決と改善が迫られています。

例えばその一つに、新学習指導要領における年間三十五時間の授業時数増への対応があります。このことについては、行事等の精選、二期制の実施、長期休業期間の短縮等々、各地区、学校において、具体的な対応がなされています。

授業時数を確保し、きめ細やかな指導による確かな学力をめざすということ。そして、生徒たちと向き合う時間を確保し、教育相談などの充実を図るということ。この二つを同時にクリアしなければなりません。

授業時数確保と生徒たちと向き合う時間の確保、この物理的には相反するように思える二つのことをどのようにクリアしていくか。ここが大きなポイントの一つであると思います。

これらの課題を乗り越え、豊かな教育活動を創りあげていくためには、人の知恵とエネルギーが必要で、学校の教育活動を川の流に例えて考えることがあります。

「川に流れがなく淀んでいるときは、木の葉や枝などの浮遊物が川面にたまり、川の水も濁ってきます。しかし、川に流れがあるときは、そしてその流れが大きければ大きいほど浮遊物や濁りも一緒に巻き込みながら流れていきます。そして川の水も、澄んできます。」

「そういういった流れをつくりだしていくことが教育を充実していく上で大切なことの一つだと思います。」

組織の弱点や短所も流れをつくりだしていくことで、それらを巻き込みながら強みや長所に変えていく。その流れを創りだすチャンスは、システムや制度が変わる時、つまり今が大きなチャンスともいえると思います。

そういう発想で今回の新学習指導要領の実施に対応していくことも課題を乗り越え豊かな教育活動を創りあげていく大きな鍵の一つになってくると思います。

弱点や短所が多く見える学校になるか、強みや長所が多く見える学校にしていくか。創意と活力ある教育活動の展開に具体的にあたることは、大きい環境の変化のなか、厳しい状況もありますが、おたがいに叡智を出し合い、切磋琢磨しながらこの変化の時代を乗り越えさせていきたいと思います。

平成二十四年度福島中学校 学校関係者評価委員会報告

学校の裁量が拡大し、自主性、自律性が高まる中でその教育活動等の成果を検証し、必要な改善を行うことにより、児童生徒がより良い教育活動が行うことができるよう、本校でも毎年二回前期末と後期末に学校評価を行っています。その学校が行った学校の自己評価結果等を学校関係者等に公開・説明を行うことにより、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めていく組織の一つが学校関係者評価委員会です。

本年度は福島小学校ならびに長峰小学校の校長先生、福島中学校PTA会長様を含め六名の皆様に本校の学校関係者評価委員会をお願いしています。

本校では、評価項目を二十六の項目を含む左記の五つの大きな項目に分け、評価を行っています。前期・後期の評価は、4(良好)3(概ね良好)2(やや課題あり)1(課題あり)の四段階評価で行っています。

その五つの大項目ごとの本年度の本校の自己評価結果(前期分・後期分)と評価委員の皆様の評価結果(前期分)および意見(前期分)は次の通りでした。

- ①：生きる力 学力の充実
 - 前期自己評価：三・〇六
 - 後期自己評価：三・一六
- 関係者評価委員の皆様の見解
 - 着実に伸び成果を出されている。全体の日常の指導の積み重ねであると思います。
 - 学力分析テストなどは県平均を上回り、学力の定着は進んでいると思います。

④：開かれた学校・教育活動の展開について

●前期自己評価：三・〇三

●評価委員評価：四(妥当な評価)

●後期自己評価：三・〇七

●関係者評価委員の皆様の見解

○管理職のリーダーシップによって学校経営全般がよく推進されているように思います。学校だよりの配布などについても中学生のよさを積極的に発信されていると思います。

○家庭学習の定着は家庭環境にもよるので、なかなか難しいと思いますが、校長のリーダーシップのもとPTAと連携してやってもらいたいと思います。

○家庭学習について福島小では、復習に重点をおいて取り組んでいきたいと考えています。

- ②：豊かな人間性の確立
 - 前期自己評価：二・七三
 - 評価委員評価：四(妥当な評価)
 - 後期自己評価：二・六八
- 関係者評価委員の皆様の見解
 - あいさつや掃除の状況などを聞くと、まだ(学校の自己評価は)高くてもよいのではないかと感じました。
 - キャリア教育、道徳教育等改善すべき点はあるかもしれませんが、基本的な生活習慣は生徒に身に付いていると思います。
 - 自尊感情の育成については小中共通の課題のようです。生徒の自己評価(アンケート)とのズレが気になることがあります。

- ③：安全な生活・健康体力の増進について
 - 前期自己評価：二・九一
 - 評価委員評価：四(妥当な評価)
 - 後期自己評価：三・一三
- 関係者評価委員の皆様の見解
 - 危機管理の評価が低かったのが気になりますが、体力のことがないかという点で、もう少し高い評価でよいのではと思います。
 - 施設環境の整備は生徒にも影響があるので、今後も継続して欲しいと思います。
 - 保健・安全・危機管理についての評価がやや悪いようです。後期の取組について共通理解

を図られて下さい。

- ⑤：小中学校の連携教育の推進・特色ある学校づくりについて
 - 前期自己評価：三・一三
 - 評価委員評価：四(妥当な評価)
 - 後期自己評価：三・〇九
- 関係者評価委員の皆様の見解
 - 小学校も小中連携については克服すべき課題もあるようです。これからやっていくことも多いと思いますが、具体策についても3校で協議すべきだと思っています。
 - 小中連携で十分と答える先生が一人もいないのは問題かな(特に特別支援学級の部分)と思います。指導に複数の先生が対応している点は効果があがっている。
 - 複数指導体制については素晴らしいと思います。今後も継続して下さい。

- 前期自己評価：三・一三
- 評価委員評価：四(妥当な評価)
- 後期自己評価：三・〇九
- 関係者評価委員の皆様の見解
 - 小学校も小中連携については克服すべき課題もあるようです。これからやっていくことも多いと思いますが、具体策についても3校で協議すべきだと思っています。
 - 小中連携で十分と答える先生が一人もいないのは問題かな(特に特別支援学級の部分)と思います。指導に複数の先生が対応している点は効果があがっている。
 - 複数指導体制については素晴らしいと思います。今後も継続して下さい。